
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 70

2010.12.1 (水)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の日本の海 和歌山県白浜町瀬戸」

和歌山県白浜町瀬戸には、京都大学の瀬戸臨海実験所が1922年に創設されて、海の生き物の研究を行ってきた。とくに海産動物の分類研究の泰斗である内海富士夫博士や時岡隆博士などが長年この海岸で海産生物を採集し、多くの新種を発表した。日本の海産生物の多くがこのような全国の臨海実験所での研究に基づいて記載された。この海岸は臨海実験所の裏側にあり、自然環境がそのまま保全された海岸である。本州南部の温暖な気候と黒潮



の影響を受けて、この海岸では石サンゴ類も見られ、タカラガイ類など暖かい海の生き物が多い。近年の温暖化にともなう南の海からの漂着物も増えているという。

(向井 宏撮影)

目次 「今月の日本の海」 和歌山県白浜町瀬戸

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の活動報告
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 事務局便り
5. 編集後記

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●大西洋クロマグロ漁獲大幅削減に失敗 わずか4%減に

資源の大幅減少が懸念されている大西洋と地中海のクロマグロの資源管理を話し合う「大西洋クロマグロ類保存国際委員会（ICCAT）」の総会が11月に行われた。3月のワシントン会議で国際取引禁止の提案がなされたが、否決されたため、このICCATでの資源管理の徹底がどの程度行われるか注目されてきた。昨年の総会では科学委員会の資源調査結果に基づいて資源管理を行うこと、個体数の激減など「資源崩壊」の危険がある場合などは、全面禁漁にするという緊急措置もとることなどを確認している。今年10月に発表された科学委員会の報告では、現在の漁獲枠を維持しても2022年までに約60%の確率で資源が回復するということで、日本などは漁獲枠の削減に反対してきた。EUは漁獲枠の半減を主張しているが、最終的にわずか4%の漁獲枠削減を決めた。

【全国】

●開発を中止するよう NGO が共同宣言

現在開発の危機にある日本の自然20ヶ所を例に挙げて、11月9日に環境保護団体が共同宣言「CBD-COP10 開催国日本の開発行為に対する NGO 共同宣言」を発表した。その中で挙げられた海関係の開発行為は、

- (1) 沖縄県東江海岸高潮対策工事
- (2) 沖縄県名護市普天間飛行場代替え施設建設工事
- (3) 山口県上関町原子力発電所建設計画
- (4) 長崎県諫早湾干拓事業
- (5) 沖縄県石垣市白保新石垣空港整備事業
- (6) 沖縄県中城湾港（泡瀬）公有水面埋立事業

であった。いずれも生物多様性のホットスポットと言われるところであり、また開発行為による自然破壊が緊急を要する事態になっており、COP10 開催国の責任として、早急に開発行為を止めて生物多様性を守る姿勢を世界に明らかにするよう求めている。

【関東】

●霞ヶ浦導水事業で市民団体が県に質問書 シジミ漁が壊滅する

市民団体の「霞ヶ浦導水事業を考える県民会議」は、この事業が涸沼のシジミ漁に大打撃を与える恐れがあるなどとして、昨年10月に茨城県に公開質問書を提出したが、その後県から回答がなかったため、あらためて公開質問書を提出した。来年1月末までの回答を求めている。公開質問書は、取水による那珂川の水位低下とそれに伴う涸沼への流量減少で、危機的局面にあるシジミ漁がさらに壊滅的状況に陥る可能性が高いと指摘。霞ヶ浦導水事業がシジミ漁に与える影響、「水余り」で同事業からの都市用水が不要になっているという同会議の指摘や、それに伴い同会議が提案する代替案への見解などをあらためて橋本昌知事に要求している。

【北陸】

●珍鳥アメリカコハクチョウが飛来

富山県野中の水田には毎年コハクチョウが飛来して越冬することが知られているが、最近日本で見られることが珍しいアメリカコハクチョウが飛来しているのが発見された。アメリカコハクチョウはくちばし全体が黒いのが特徴で、北アメリカで繁殖する鳥である。3年前から毎年飛来しており、同じ個体と見られている。

●港で謎の大揺れ 能登町・小木港

石川県能登町的小木港は、日本でも屈指のイカ釣り船団の基地として全国に知られているが、最近、小木港で謎のうねりが生じている。波が穏やかな「なぎ」の状態の海で突然船が大きく揺れる奇妙な現象が起こっている。揺れはかなり大きく、上下に50cm、前後左右に2-3mにもなり、係留ロープが切れたり、荷揚げ用のベルトコンベアーが壊れたりする被害も起きている。ここ4-5年前から顕著になり始めたという。全国でもこのような現象は知られておらず、穏やかな海の下で何が起きているのか、気味悪がられているだけでなく、被害が予想できないため、港湾管理組合でも頭を悩ませている。原因として噂されているのは、港の岸壁から300m離れたところに新しく建設された南防波堤の影響ではないかというもの。1981年から行われている小木港整備事業で、2003年に南防波堤が完成した。それまで飛び石状に作られていた防波堤を一本につないでしまった時期と、謎のうねりが生じ始めた時期が一致していることから、南防波堤建設が犯人という見方が広がっている。石川県の担当者はその見方を肯定も否定もしていない。来年度には観測データの解析を行い、原因を探るといふ。このような小規模の工事が大きな被害に至ることもあり得る。アセス

も行われていない。海の生き物にはどのような影響がでているだろうか。それを調べる予定はないようだ。

【近畿】

●天橋立にカキ礁が邪魔？ 住民らが撤去作業

京都府宮津市文珠の天橋立で、カキが大量繁殖し、カキ礁が天橋立の内海・阿蘇海の南側などの文殊水道に島状に形成されている。カキ礁のかかなりの部分はカキの死殻であることなどから、「美観を取り戻す」ために住民らがカキ殻の撤去作業を行った。約 16.5 トンを取り除いたという。カキ礁の形成は海水の富栄養化が原因とみられている。撤去したカキは農園の肥料などに活用するとしている。地元の商工会などは今後も定期的に撤去作業を継続する必要があると述べた。しかし、カキ礁が大きい海水の浄化作用を持っていることが知られており、たんに景観上の理由でカキ礁を撤去しようとするのは、本末転倒ではないだろうか。

【中四国】

●旧日本軍の爆弾 松山沖で水中爆破処理

愛媛県松山市の松山港外の海底で旧日本軍の爆弾が見つかった事件で、海上自衛隊は海底の爆弾の水中爆破処理を行った。港の近くで行われた水中爆破処理によって、二つの水柱が上がり、海底に直径 5~18m、深さ 0.5~3m の 4 つのクレーターができた。現地対策本部の発表によると周辺での被害はなかったとしている。しかし、海の生き物に影響が無かったとは、誰も言えないのではないかと。ダイナマイト漁などによる海の生態系への影響はよく知られており、最近ではどの国もダイナマイト漁を禁止している。それにもかかわらず、爆弾を水中処理して被害がないと発表する神経を疑う。爆弾の水中処理は禁止すべきではないか。

●上関埋立工事 台船が撤退

山口県上関町長島の田ノ浦に原発を建設しようとする中国電力は、祝島の住民らの反対の中で、埋め立て工事を行うために今年 9 月から 3 回にわたって埋め立て用工事台船 3~4 隻を田ノ浦に向かわせてきた。しかし、その度に祝島漁業者など反対住民による抗議行動に阻まれて、撤退を余儀なくされている。3 回目は生物多様性条約の COP10 が開催されている最中に、生物の多様性のホットスポットというべき長島周辺の海を埋め立てようと企てた。しかし、祝島漁師が 24 時間体制で台船の動きを監視し、田ノ浦に向かわせないよう抗議を続けたため、最終的に「海が荒れる予報」を理由としてすべての台船が撤退した。約 10 日間にわたる祝島の漁業者による夜を徹しての抗議によって、今回も埋め立て工事は再開されなかった。住民以外からも次第に多くの人々が関心をよせるようになり、

ますます中国電力は焦りを見せ始めている。いつまた作業船が動き始めるかわからず、祝島住民には眠れぬ夜がまだまだ続いている。

【九州】

●諫早開門を早く！ 4学会がシンポで訴え

日本生態学会、日本魚類学会、日本ベントス学会、軟体動物多様性保全委員会の4学術団体が、諫早市の市民センターで諫早湾干拓事業による有明海の異変についてデータに基づく警鐘を鳴らした。そのうえで、潮受け堤防の中長期開門を強く訴えた。市民ら約150人が参加した。主催者の一人鹿児島大学の佐藤正典教授は、この締め切りで約2900haの干潟が失われ、干潟が持っていた水質浄化能力が大きく損なわれ、有明海の異変につながったと指摘し、有明海は泥干潟特有の生物相にとって最後の砦。国際的合意である生物多様性保全を重視するならば、もっとも保全を急がねばならないかけがえのない場所だと訴えた。その他に、長崎大学の山口敦子教授が有明海の漁獲量が激減しているデータを示し、岡山大学の福田宏准教授は、有明海/不知火海特有のアズキカワザンショウが締め切り後、島原半島側で絶滅したことを示した。東北大の佐藤慎一助教は、短期開門でも底生動物が大幅に増加したデータを示し、早期に中長期開門を行うべきだと指摘した。

●有明海 諫干短期開門後 海底動物4倍に

長崎大、東北大、鹿児島大の教授や学生でつくる「諫早湾保全生態学研究グループ」（代表＝東幹夫長崎大名誉教授）は、2002年4～5月に実施された長崎県諫早市の諫早干拓事業短期開門調査において、有明海海底の動物数が4倍以上に急増したとする調査結果を発表した。一ヶ月程度の開門と動物数の急増の因果関係は不明だが、この結果からも中長期の開門調査が必要とした。調査は有明海の50地点でベントス（底生動物）に関して行ったもの。前年の6月の調査では1㎡あたり3759個体だったのが、開門直後の2002年6月では15545個体に増えた。その後、開門終了後11月までに減少し、2000～4000前後となった。東名誉教授は「国は『干拓事業の影響は有明海まで及ばない』としてきたが、本当だろうか。中長期開門調査で、はっきりさせるべきだ」と述べた。

●鹿児島県内でウミガメ上陸7824頭

今年鹿児島県内で上陸したウミガメは、7824頭に上り、過去最多だった2008年に次いで2番目に多い記録となった。昨年は5243頭だった。ウミガメが上陸したのは県内の33市町村。砂浜を持つ38市町村の大部分にウミガメが上陸したことになる。もっとも多かったのは屋久島町の3734頭で、全体の半分を占める。次いで種子島の中種子町の1032頭だった。南さつま市と日置市にまたがる吹上浜にも640頭と昨年の倍以上が上陸した。

【沖縄】

●辺野古・泡瀬干潟を守る伊波洋一さん 届かず 県知事選挙

沖縄県の知事選挙が全国的な注目を浴びる中で28日行われ、民主党政権が進めている辺野古への米軍基地移転や沖縄市が行っている泡瀬干潟の埋立工事などを再検討し、自然環境を守るとはっきりと公約していた前普天間市長の伊波洋一さんは、現職の仲井真弘多氏に及ばず、落選した。これで辺野古の海と泡瀬干潟を開発から守る防波堤が一つ崩れてしまったことになる。現職の仲井真知事は、辺野古への普天間基地移設に反対の態度を表明したが、どこまでその主張が続けられるか疑問視されている。一方、泡瀬干潟に関しては、東門沖縄市長の進める一期工事を認める考えを示している。

2. 海の生き物を守る会 活動報告

●日立環境財団NPO活動報告会で活動紹介

11月20日（土）午後、東京のKDDI会館で日立環境財団NPO活動報告会が開かれ、海の生き物を守る会も、2008年度に同財団から助成を受けて行った野付半島を守るワークショップや観察会、海洋保護区のシンポジウムなどの活動報告をポスター展示した。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【北海道】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010年12月14日（火曜日）15日（水曜日）

場所：札幌市北区北8条西3丁目（[地図](#)）

会場：札幌エルプラザ2F環境研修室／札幌市北区北8条西3丁目

【プログラム】第1部：10:30上映／第2部：14:00上映／第3部18:30上映

【託児】一部託児あり。詳しくはお問い合わせ下さい。託児問合せ：T e l & F a x 011-727-0120（高橋）

【参加費】1000円 【主催】チェルノブイリから25年～はんかくさい実行委員会 【問合せ先】らる畑ハシモト／011-614-2406／raru-808@image.ocn.ne.jp

【関東】

●OWS海のトークセッション 「カイメンの多様な世界」

ゲストスピーカー：伊勢 優史(東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所・特任助教)

皆さんは、「カイメン」と聞いて何を想像しますか？女性なら身体を洗ったり化粧に使う海綿を思い出す方もいるかもしれません。カイメン（海綿動物）は、最も祖先的な多細胞動物と言われており、我々動物の進化を考える上で極めて重要な生き物です。また、抗ガン剤等に利用できる有用天然化合物を生み出す生物資源としても注目を集めています。しかしながら、生物学の教科書ですら、ごくわずかな紹介しかなされておらず誤解されることの多い生き物とも言えます。カイメンを追いかけて潜った各地の海や深海調査の風景をまじえつつ、この謎多き動物の多様な世界を紹介します。

開催日時：12月3日（金）19：00～20：30（18：30 受付開始）

開催場所：モンベルクラブ渋谷店 5F サロン

渋谷区宇田川町 11 番 5 号 モンベル渋谷ビル TEL 03-5784-4005 [>>地図](#)

参加費：800 円

定員：40 名程度(最少催行 10 名)

お申し込み方法：お電話(OWS 事務局 03-5960-3545)またはこちらの[フォーム](#)よりお申し込み下さい。※キャンセルされる方は必ずご連絡ください。>> [キャンセルフォーム](#)

●第4回 羽田シンポジウム

「羽田空港周辺と東京湾の水環境?調査 研究の中間成果報告」

シンポジウムの目的： 東京国際空港再拡張事業は、多摩川河口域に栈橋構造を含む大規模構造物を建設するといった我が国に未だ例のない事業であり、予測し得なかった影響が将来生じる可能性を否定できません。そこで羽田周辺水域環境調査研究会では、多分野の統合的な調査研究により、未解明な部分の多い「陸域?河口域・浅場・干潟域?湾域?外洋域」の連続した物質循環・生物過程を把握し、複雑な環境下で成立している多摩川河口域の生態系の果たしている役割や維持機構を解明すること、多摩川河口域に埋立・栈橋組合わせ構造の滑走路を建設することにより変化する可能性のある羽田周辺水域の物理・化学・生物的機構を把握・解明すること、調査研究から得られた知見を基に東京湾全体も視野に入れた海域・河口域の環境保全再生の提言を行うこと、等を目的として調査研究に取り組んでいます。今年度で第4回目を数える羽田シンポジウムは、去る10月21日の新設滑走路の供用開始を機に、当研究会が様々な分野の研究者と行政、NPOなどと協働で調査研究を進めてきた成果を中間成果報告として皆様に紹介すると共に、東京湾をフィールドとして水域環境調査を実施しているグループのポスターセッションを行うものです。

シンポジウムプログラム

1. 名称： 羽田周辺水域環境調査研究 第4回シンポジウム 「羽田空港周辺と東京湾の水環境 調査研究の中間成果報告」
2. 開催日： 平成22年12月12日（日）
3. 会場： 東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館

住所： 東京都港区港南 4-5-7 TEL：03-5463-0400（代表）

4. 主 催： 羽田周辺水域環境調査研究委員会

5. 共 催： 財団法人港湾空間高度化環境研究 センター

6. 参加可能人数： 一般聴取 100名

7. プログラム：

(1) 開会 10：00～10：10（主催者挨拶）

(2) 講演

午前の部 10：10～12：10

八木 宏（水産総合研究センター水産工学研究所環境水理研究チーム長）

「東京湾・羽田周辺水域の流動構造」

中川 康之（港湾空港技術研究所海洋・水工部沿岸土砂管理研究チームリーダー）

「多摩川河口周辺域での地形・底質の変動特性について」

小川 浩史（東京大学大気海洋研究所 准教授）

「水質・底質から見た東京湾・羽田周辺水域の貧酸素水塊の現状」

二瓶 泰雄（東京理科大学 准教授）

「陸域から羽田周辺海域に運ばれる土砂・栄養塩・有機物」

午後の部 13：10～14：50

河野 博（東京海洋大学 教授）

「多摩川河口域を魚類はどのように利用するか」

風呂田利夫（東邦大学 教授）

「多摩川河口ベントス群集の特徴と東京湾ベントス多様性保全」

鈴木 覚（NPO法人海辺つくり研究会 理事）

「市民が調べた羽田周辺水域環境」

(3) 東京湾をフィールドとして調査研究をしているグループのポスターセッション

15：00～16：30

(4) 閉会 16：30

参加申し込み方法：参加費は無料です。（先着100名）、締め切り：12月7日（火）

下記申し込み事項を記入の上、FAX又はE-mailでお申し込み下さい。定員になり次第締め切らせて頂きます。 FAX：03-5408-8747 E-mail：haneda@wave.or.jp

申し込み事項： 申し込み年月日 代表者名（ふりがな）参加人数（代表者を含む）所属団体・部署 住所：〒 電話番号、FAX、E-mail 代表者を除く参加者名（ふりがな）、住所、所属団体部署

問い合わせ先：（財）港湾空間高度化環境研究センター 第2調査研究部 中島

Tel: 03-5408-8298 E-mail: nakashima-m@wave.or.jp

●日本サンゴ礁学会第13回大会 公開シンポジウム

「サンゴ礁の生物多様性を支える分類研究とその展開」

日時：2010年12月5日（日）14:00～16:30

場所：茨城県つくば市「つくばカピオ」ホール（高速バス「つくばセンター」、つくばエクスプレス「つくば駅」徒歩7分）http://enjoy-live.net/detail/detail.php?hall_id=1519

主催：日本サンゴ礁学会 後援：日本生物多様性観測ネットワーク (J-BON)

開催趣旨：今年は、国連が定めた国際生物多様性年であり、10月には生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）が日本で開催されるなど、生物多様性保全と利用への関心が高まっている。しかし、生物多様性をどのように把握するかについての議論は多くない。生物多様性の保全と利用のためには、「どこに、どのような生物がどれくらいいるのか」を知ることが必要であり、その基礎をなすのは、生物を命名し、同定する分類学である。最近になって、生物分類群やハビタットの多様性に注目した優先保全地域抽出の試みがなされ、また、日本近海が世界的に海洋生物の種多様性が高い海域であることが認識されつつあるが、同時に、相当数の未記載種や、日本でこれまでに分布が知られていなかった種の存在も判明している。日本のサンゴ礁においても例外ではなく、生物多様性について十分理解されているとは言えない。こうした現状を踏まえつつも、生物種のデータベースが整備され、地域や国、研究者らに広く活用される基礎情報となることは重要である。このような基礎情報の蓄積と活用により、サンゴ礁域における海洋保護区が設定されることで、生物多様性の保全と利用がより効果的になるだけでなく、分類学的研究がさらに進展することが期待できる。そこで、本シンポジウムでは、演者の方々に、サンゴ礁域の分類学を基礎とした生物多様性研究、ならびにサンゴ礁の生物多様性モニタリングと保全施策についての話題を提供していただき、これから日本のサンゴ礁域で生物多様性研究を進めていくための諸課題に、どのように取り組んでいくべきかについて議論したい。

企画者：加藤亜記（琉球大学熱帯生物圏研究センター）・安村茂樹（WWFジャパン）

プログラム

1. 趣旨説明

2. 第一部 講演

- (1) 藤倉克則（海洋研究開発機構）：「日本近海にはどれくらいの生物がいるのか」
- (2) 寺田竜太（鹿児島大学水産学部）：「サンゴ礁生態系における海産植物の種多様性と群落構造の特性、現状と課題」
- (3) 藤田喜久（NPO 法人海の自然史研究所・琉球大学大学教育センター）：「沖縄での種多様性研究とその成果を活かしたアウトリーチ活動の実践例」
- (4) 荒牧まりさ（環境省自然環境局自然環境計画課）：「サンゴ礁生態系保全行動計画について」

3. 第二部 パネルディスカッション

「サンゴ礁生態系の多様性モニタリングと保全施策への研究者の貢献」

コメンテータ：杉原 薫（国立環境研究所）

● 「NGO 国際水銀シンポジウム

ー水俣病と世界の水銀問題ー水俣の経験を学び、強い水銀条約とする」

日時：2010年12月4日（土）12:30 開場 13:00～17:15

場所：JICA 研究所 国際会議場（東京・市谷）

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5 TEL：03-3269-2911

地図：<http://jica-ri.jica.go.jp/ja/about/access.html>

JR 中央線・総武線「市ヶ谷」徒歩 10 分 東京メトロ有楽町線・都営地下鉄新宿線

「市ヶ谷」A1 番/4 番出口 徒歩 10 分 東京メトロ有楽町線・南北線 「市ヶ谷」6 番出口 徒歩 10 分

資料代： 500 円

定員：200 名（事前申し込みがなくても、余席があれば参加できますが、資料準備のために事前にメール/FAX/TEL で参加の連絡をいただければ幸いです。）

同時通訳付き

プログラム

はじめに 13:00～13:30

「開会挨拶」 藤原寿和（化学物質問題市民研究会代表）

「水銀条約と日本の水銀問題の概要」 安間武（化学物質問題市民研究会）

第 1 部 水俣病から学ぶ（第一部 司会：藤原寿和） 13:30～15:20

「水俣病被害者の闘いと今後の課題」 谷洋一さん（NPO 法人水俣病協働センター理事）

「水俣病被害者の報告」 佐藤英樹さん（水俣病被害者互助会会長）

「水俣から学ぶ」 原田正純先生（元熊本学園大学教授）

「質疑応答」

休憩 15 分

第 2 部 世界の水銀問題（第二部 司会：安間武） 15:35～17:05

「事例に基づく世界の水銀問題と NGO 活動」

ジョセフ・ディガンギ博士（米）（IPEN 上席科学顧問）

「途上国における小規模金採鉱：フィリピンの事例」

リチャード・グティエレスさん（比）（バン・トクシックス代表）

「質疑応答」

閉会 17:05～17:15

「まとめと閉会挨拶」 安間武（化学物質問題市民研究会）

主催：化学物質問題市民研究会 〒136-0071 東京都江東区亀戸 7-10-1 Z ビル 4 階

TEL/FAX 03-5836-4358

svasuma@tc4.so-net.ne.jp <http://www.ne.jp/asahi/kagaku/pico/>

支援：欧州環境事務局（EEB）、国際 POPs 廃絶ネットワーク（IPEN）

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010年12月6日（月曜日）

場所：千葉県佐倉市井野794-1 ([地図](#))

会場：志津コミュニティセンター視聴覚室／千葉県佐倉市井野794-1

【プログラム】開場9:45、上映10:10 【参加費】400円 【主催】生活クラブ生協千葉下総ブロック 地球とからだにやさしいスローフードの会 【問合せ先】野坂／043-461-7868

□日時：2010年12月6日（月曜日）

場所：東京都千代田区永田町2-1-1 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋鎌仲監督トーク in 議員会館 【会場】参議院議員会館内講堂／東京都千代田区永田町2-1-1

【プログラム】16:00 開会挨拶／16:05 監督スピーチ／16:20 上映／18:30 監督 Q&A 【参加費】主催者にお問い合わせください 【主催】公共事業チェック議員の会 【問合せ先】石川／03-6550-1111／akirai@jca.apc.org

□日時：2010年12月11日（土曜日）

場所：東京都世田谷区北沢2-24-8 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋監督トーク&ライブ in 下北沢 【会場】アレイホール／世田谷区北沢2-24-8 下北沢アレイビル

【プログラム】第1回上映12:00～／大木雄高さん「LADY JANE」オーナー）トーク&たけるくんライブ15:00～16:00／第2回上映17:00～／監督&大木雄高さんトーク19:00～21:00 【参加費】前売1500円／当日1800円 【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」12.11シモキタ上映実行委員会 【問合せ先】矢郷／090-8450-5846 / ttsetagaya@gmail.com

□日時：2010年12月11日（土曜日）

場所：東京都大田区蒲田5-13-26-101 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋鎌仲監督トーク in 大田区 【会場】大田区立消費者生活センター 講座室 大田区蒲田5-13-26-101／03-3736-7711

【プログラム】昼の部14:00～16:15 / 夜の部18:00～20:15 監督トーク16:30～17:45 【参加費】800円（中学生以下は無料）前売のみで当日券なし 【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」大田上映実行委員会 【問合せ先】生活クラブ生協大田センター／03-5748-0661

●映画「祝の島」上映会

日時：12月5日（日）10:00～、13:00～、16:00～、19:00～

場所：埼玉県本庄市 本庄市赤煉瓦ホール

問い合わせ先：0495-24-6683 meigetsuza@gmail.com (河田)

「祝の島」こたつ団らんツアー

映画『祝の島』をより日常に近い距離でご覧頂く上映ツアーです。この映画たくさんの方たちに届けたい、という思いから始まりました。上映機材はすべて持ち込み、スタッフが出張して上映する、映画の出前のような新しい試みです。

*開催時期：2010年11月～2011年1月

*開催場所：関東各地

スケジュールは以下の通り

12月1日(水) 10:00～	千葉県 富津市	ギャラリー ラフ ンドウラ	090-4060-9796 (エコウィンド・竹内)
12月10日(金) 19:00～	東京都 豊島区	琉球センターど うたち	03-5974-1333 (琉球センターどうたち 島袋)
12月11日(土) 19:00～	群馬県 前橋市	地球のうた	hiromi.kin218@kmd.biglobe.ne.jp 027-283-0437 (工藤)
12月18日(土) 17:00～	神奈川県 相模原市	牧郷ラボ	藤野「祝の島」牧郷ラボ 上映委員会 042-682-0330 (小山)
12月19日(日) 10:00～	神奈川県 相模原市	宅老所すずかけ の家	藤野「祝の島」すずかけの家上映委員 会 042-682-0330 (小山)
12月22日(水) 19:00～	神奈川県 藤沢市	元祖へっころ谷	hekkoro★tbp.t-com.ne.jp 0466-82-1702 (古屋)

【中部・北陸】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010年12月5日（日曜日）

場所：石川県珠洲市飯田町16-21-1 ([地図](#))

会場：わくわく広場（珠洲市役所前）／石川県珠洲市飯田町16-21-1

【プログラム】1回目10:00~/2回目14:00~/3回目18:00~ 【参加費】前売1500円/当日1800円（温かいお茶とお菓子付） 【問合せ先】高田/090-8094-5703/peacefull@hotmail.co.jp

□日時：2010年12月18日（土曜日）

場所：長野県上田市上丸子1488 ([地図](#))

会場：上田市丸子文化会館小ホール/〒386-0404 長野県上田市上丸子1488

【プログラム】 ◆朝の部.....9:50 良太ライブ/10:00 上映/12:15 鎌仲監督トーク(30分) ◆昼の部...13:20 良太ライブ/13:30 上映/15:45 鎌仲監督講演(60分) ◆夜の部...18:20 良太ライブ/18:30 上映/20:45 鎌仲監督トーク(30分) 【チケット】一般前売り800円/一般当日1000円/学生割引あり（主催者にお問い合わせください） 【託児】朝の部・昼の部のみ（1歳半以上）要予約・無料、締め切りは12月12日(日) 【家族割】親子・夫婦などご家族連れの場合、一人につき100円キャッシュバック 【ミニマーケット】ロビーでく顔の見えるミニマーケット>開催。地元の方が特許をとっている風力発電機の展示などもあります 【プレイガイド】平安堂上田店・上田しおだ野店 【主催】ミツバチ委員会&六ヶ所会議 in うえだ 【問合せ・託児お申込】080-5146-9937（フジカワ）rokkasyo_ueda@yahoo.co.jp

【東海】

●海洋生物シンポジウム「海洋生物を知る！」

日時：2010年12月5日（日）13:00-17:00

会場：東海大学 短期大学部（静岡市葵区宮前町）5号館522教室

※静岡鉄道「柚木（ゆのき）」駅前

対象（参集範囲）：静岡周辺に住む一般（高校生から一般まで）

プログラム

13:00 開会

13:10 講演

駿河湾のサメと環境 堀江 琢

駿河湾の造礁サンゴとその生態研究 矢富洋道

<特別講演> 静岡市立日本平動物園 柿島安博氏

動物園の海獣類－その生態と飼育

海の生き物も匂いを嗅いでいる？－魚類が持つ高度な嗅覚機能 庄司隆行

「フグは食いたし、命は惜しし」のフグ毒の話 斎藤俊郎

16:30-16:55 質疑応答

17:00 閉会

・参加無料

参加申し込み方法：氏名、電話番号を明記して、下記までメールにて申し込んでください。

携帯メールでも申込可能です。<申込先アドレス> acad-marine@ml.tokai-u.jp

・締切り 2010年12月3日(金)17:00 必着

●問い合わせ

上記アドレスまたは054-337-0932（東海大学海洋学部海洋生物学科）

※同じものが <http://www.scc.u-tokai.ac.jp/ocean/oe/2010-2.pdf> にあります。

【近畿】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010年12月2日（木曜日）

場所：和歌山県和歌山市小人町29 ([地図](#))

★和歌山県リレー上映会★ 【会場】男女共生推進センターみらい／和歌山市小人町29／073-432-4704 詳細調整中

□日時：2010年12月3日（金曜日）

場所：和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町2454 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in かつらぎ町 ★和歌山県リレー上映★ 【会場】かつらぎ総合文化会館「あじさいホール」／和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町2454 /0736-22-0303 詳細調整中

□日時：2010年12月4日（土曜日）

場所：和歌山県田辺市新庄町3353-9 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 田辺 ★和歌山県リレー上映★ 【会場】和歌山県情報交流センター・ビッグ・ユー／和歌山県田辺市新庄町3353-9／0739-26-4111 【プログラム】10:00～、13:00～、18:00～ 【参加費】前売1000円、当日1200円 【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」を上映する和歌山の会 in 田辺 【問合せ先】田中／0739-24-7660／minatajp@gmail.com ●を@にしてください

□日時：2010年12月5日（日曜日）

場所：和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 本宮 ★和歌山県リレー上映★
【会場】世界遺産 熊野本宮館/和歌山県田辺市本宮町本宮 100-1/0735-42-0751 【プログラム】昼の部...12:30 開場、13:00 監督トーク、13:30 上映、ディスカッション 16:00
/夜の部...開場 17:00、17:30 監督トーク、上映 18:00、ディスカッション 20:15 【参加費】
前売 1000 円/当日 1200 円 【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」を上映する会 in 本宮

【中四国】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010 年 12 月 12 日（日曜日）

場所：山口県宇部市新天町 1-1-1 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督&ゲストトーク in 宇部 【会場】ヒストリア
ア宇部イベントホール/山口県宇部市新天町 1-1-1 【プログラム】開場 13:00/上映 13:30

【参加費】前売 1300 円/当日 1500 円 【主催】えにし 【問合せ先】植野/090-5372-8326
/dogpaw@wonder.ocn.ne.jp

【九州】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

□日時：2010 年 12 月 2 日（木曜日）

場所：佐賀県鳥栖市元町 1255-1 ([地図](#))

会場：鳥栖キリスト教会/鳥栖市元町 1255-1 【プログラム】開場 19:00 【参加費】500
円 【主催】NO! プルサーマル佐賀ん会 【問合せ先】hirokinona@ybb.ne.jp

□日時：2010 年 12 月 8 日（水曜日）

場所：鹿児島県薩摩川内市永利町 4107-1 ([地図](#))

「ぶんぶん通信 no.1」+「うまれる」予告編上映会 in 薩摩川内市 【会場】薩摩川内総合福
祉会館/薩摩川内市永利町 4107-1 【プログラム】13:00~15:00/子連れ、おやつ・おもち
ゃ持込可 【参加費】前売 400 円/当日 500 円 【主催】NPO 法人 Re ばーす川内支部 【問
合せ先】森永/0996-22-8063/m.goby-loby@nifty.com

□日時：2010 年 12 月 11 日（土曜日）

場所：鹿児島県薩摩川内市永利町 4107-1 ([地図](#))

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+川内原発死亡漂着写真展 in 薩摩川内 【会場】薩摩
川内総合福祉会館/鹿児島県薩摩川内市永利町 4107-1（市民病院となり） 【プログラム】
①10:30~12:45(託児つき・要申込み・ひとり 300 円) /②14:00~16:15/③18:00
~20:15 【参加費】前売 1000 円/当日 1200 円/小学生、中高生料金は主催者にお問合
せください 【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」川内上映実行委員会 【問合せ先】森

【沖縄】

●海洋博研究センター サンゴシンポジウム ⑤

「サンゴの移植 —移植片の準備・移植とモニタリング・MPA —」

趣 旨

沖縄のサンゴ礁は、サンゴの白化現象、オニヒトデなどによる食害、陸上からの流入物およびサンゴ礁における人間活動などによって荒廃し、その総合的資源価値が減少している昨今、多くの人々がそれぞれの思いで海岸や海中の清掃やサンゴの移植などを行って、サンゴ礁の保全に取り組んでいる。サンゴ礁保全には、政府や地方行政主導、会社やNPO、漁業者その他の任意団体および試験研究を含む個人的取り組みなどさまざまなものがある。

名桜大学総合研究所では、サンゴ群集の保全・再生・創出活動の一つとしてサンゴの移植に焦点をあて、それに関わる諸問題を議論し、将来への展望を探るシンポジウムを、2006年以來これまで3回開催したが、2009年の4回目からは海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センターが主催して、タイ国とインドネシアから研究者と実践家の協力を得て、国際シンポジウムを開催した。

2010年は、生物多様性に関わるCOP10の開催もあり、サンゴ礁の保全の機運がこれまで以上に高まりを見せている中で、漁業者自らが漁場であるサンゴ礁生態系の保全に関わる支援事業がスタートした。これらのことを念頭に置いて、第5回目に当たる今回のシンポジウムは、昨年に引き続きインドネシアからサンゴ礁保全事業に参画した専門家と自らサンゴ礁保全活動を推進している漁民チームのリーダーを招いて基調講演を依頼して行われる。また、沖縄でサンゴ礁の保全活動に関わっている個人・NPO・漁業者および行政など、さまざまな立場から広く話題提供者を迎えて、保全への取り組みの技術的発展、移植などの実施とモニタリング、海洋保護区設定の重要性や資源保護の法的施策などに関する学習と論議を深めたい。併せて、参加者によるパネルやポスターの展示、パンフレットなどの配布を歓迎し、情報交換と発信、幅広い交流ができるような場を設定する。

このような試みを通して、移植を主としたサンゴ礁保全へのそれぞれの取り組みや問題点、将来に対する展望などを議論し合い、広く知識と経験および成果と問題を共有し、今後の取り組みの展開に資すべく、いろいろな考えや取り組みの当事者達が議論するための場をつくりたいと考えている。

主 催：(財)海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター 共 催：名桜大学総合研究所

後 援：沖縄県文化環境部・県サンゴ礁保全推進協議会・日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会

日 時：2010年12月10日(金) 10:00～16:30

場 所：海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター視聴覚室・会議室

対象と定員：サンゴ礁保全に関心のある方・定員70名

参加費：無料

プログラム

コーディネーター：西平守孝（海洋博研究センター）

基調講演：（60分）

- ① Rahmadi Prasetyo（Bangun Citra Pesisir Co. Ltd. 沿岸開発企画コンサルタント）：
インドネシアにおけるサンゴ移植活動の非成功例から学ぶこと
- ② I Wayan Patut（バリ・セランガン漁民グループ代表）：海中の保全活動に
よってセランガン島を取り戻す

移植片の種苗生産（1）（60分）

- ① 岡田 敏（沖電開発（株））：移植サンゴの種苗生産
- ② 比嘉義視（恩納村漁協）：サンゴの種苗生産・移植・モニタリング
- ③ 金城浩二（海の種）：サンゴの畑とサンゴの種苗生産

移植片の種苗生産（2）（60分）

海洋博研究センター
サンゴシンポジウム ⑤

サンゴの移植

— 移植片の準備・移植とモニタリング・MPA —

パネル・ポスターなどの展示 10:00～16:30
(会議室・会場ロビー)

サンゴ礁保全やサンゴの移植活動に関連した取り組みなど、パネルやポスター・パンフレット・標本などの展示も可能です。展示やパンフレットなどの配布をご希望の方は、開始前に各自ご準備頂き、活動の紹介や宣伝あるいは情報交換・国際交流にご活用下さい。

日時：2010年12月10日（金）
10:00～16:00

会場：海洋博覧会記念公園管理財団
総合研究センター視聴覚室

参加費：無 料

事前申し込み：定員約70名



コーディネーター：西平守孝（海洋博研究センター）

基調講演：（60分）

- ① Rahmadi Prasetyo (Bangun Citra Pesisir Co. Ltd. 沿岸開発企画コンサルタント)：インドネシアにおけるサンゴ移植活動の非成功例から学ぶこと
- ② I Wayan Patut (バリ・セランガン漁民グループ代表)：海中の保全活動によってセランガン島を取り戻す

— 休憩10分 —

移植片の種苗生産(1)(60分)

- ① 岡田 敏(沖電開発(株))：移植サンゴの種苗生産
- ② 比嘉義視(恩納村漁協)：サンゴの種苗生産・移植・モニタリング
- ③ 金城浩二(海の種)：サンゴの畑とサンゴの種苗生産

— 昼食50分 —

移植片の種苗生産(2)(60分)

- ④ 上原 直(グローイングコーラル)：市民ベースのサンゴ礁保全活動について
- ⑤ 下條 武(沖縄県水産課)：沖縄県漁業調整規則：サンゴの採捕と移植に関する解説
- ⑥ 西平守孝(海洋博研究センター)：自然への負荷の少ない移植片の準備

— 休憩10分 —

モニタリングと海洋保護区(60分)

- ⑦ 魚田夏紀(チーム美らサンゴ)：サンゴの移植—長期的取り組み
- ⑧ 藤原秀一・毛塚大輔(いであ)：着床具サンゴの移植とモニタリング
- ⑨ 鹿熊信一郎(沖縄県)：サンゴ礁海域における海洋保護区(MPA)

— 休憩10分 —

総合討論：40分
司 会：中野義勝(琉大・熱生圏・海底研究施設)

主催：海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター
共催：名桜大学総合研究所
後援：沖縄県文化環境部・沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会

●参加申し込みとお問い合わせは下記まで：

海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター普及開発課 担当：藤原礼乃・高 英昭
電話：0980-48-2268（午前9時～午後5時） ファクス：0980-48-2200
E-メール：oerc@kaiyohaku.or.jp（メールの件名は サンゴシンポ とお書き下さい）

④上原 直(グローイングコーラル)：市民ベースのサンゴ礁保全活動について

⑤下條 武(沖縄県水産課)：沖縄県漁業調整規則：サンゴの採捕と移植に関する解説

⑥西平守孝(海洋博研究センター)：自然へ負荷の少ない移植片の準備

モニタリングと海洋保護区（60分）

⑦魚田夏紀(チーム美らサンゴ)：サンゴの移植—長期的取り組み

⑧藤原秀一・毛塚大輔(いであ)：着床具サンゴの移植とモニタリング

⑨鹿熊信一郎(沖縄県)：サンゴ礁海域における海洋保護区(MPA)

総合討論：40分

司会：中野義勝（琉大・熱生圏・瀬底研究施設）

パネル・ポスターなどの展示 10:00～16:30（会議室）

サンゴ礁保全やサンゴの移植活動に関連した取り組みなど、パネルやポスター・パンフレット・標本・ビデオなどの展示。展示やパンフレットなどの配布希望者が、シンポジウム開始前に各自会場に準備して、活動の紹介や宣伝あるいは情報交換に活用。

参加申し込み と お問い合わせは下記まで：

海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター普及開発課 担当：篠原礼乃・高 英昭

電話：0980-48-2266（午前9時～午後5時）、ファクス：0980-48-2200

E-メール：oerc@kaiyohaku.or.jp（メールの件名は サンゴシンポ とお書き下さい）

●海洋酸性化会議サイドイベント

日時：2011年1月16日(日)

会場：万国津梁館(沖縄県名護市喜瀬 1792 番地) <http://www.shinryokan.com/>

主催：環境省

協力：国立環境研究所、琉球大学

予定：13時から ポスター掲示とディスカッション

14時半から 一般向け講演会

モンタレー湾水族館研究所 Peter Brewer 博士

京都大学フィールド研究センターセンター長 白山義久博士

16時から ポスタートークセッション

18時から アイスブレイカー(簡単なビュッフェ形式懇親会)

参加費：無料ですが、事前登録がないと入場はお断りします。登録先、国立環境研究所地球環境研究センターIPCC2011年合事務局 ipccoem2011@nies.go.jp 必ず「海洋酸性化会議サイドイベント参加希望」あるいは「海洋酸性化会議サイドイベントポスター発表希望」とタイトルを書いてください。サイドイベントに登録されても、17日からの本会合は聴講できませんので、ご注意ください。

交通：会場には駐車場がありますが、公共交通機関利用も可能です。那覇から路線バスがあります（20番線、120番線）。高速バス(名護行き) 利用の場合は、高速バス停「世富慶」で路線バスへの乗り換えあるいはタクシー利用になります。帰りの那覇行きは、ブセナテラス前バス停 20時が最終です。

ポスター発表について：海洋酸性化研究と関連したポスター発表を受け付けます。A0タテ以内のサイズのポスターを持参ください（会場付近で印刷はできません）。発表希望者は12月20日(月)までに、ローカル事務局に英文200word以内のアブストラクト(様式は下例に従うこと)をお送りください。タイトルおよびポスターの内容は英語に限ります。ポスター掲示は、海洋酸性

化研究と深く関連するものに限りません。開催者の判断で適切でないと考えられる内容については、お断りすることがあります。また、ポスター発表者は2分以内のトーク(英語に限る)をすることになりますので、1枚に発表内容を要約したパワーポイントファイルをお持ちください。

4. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5. 編集後記

とうとう今年もカレンダーが最後の一枚になりました。生物多様性条約 CBD の COP10 もほとんどの行事が終わりました。でも、日本ではいくつかの生物多様性のホットスポットと言われる場所が開発の危機に立っています。これまでこの「うみひろも」で情報をお届けしてきた辺野古、泡瀬、諫早、上関などの開発計画ですが、まだ「うみひろも」でとりあげていない開発計画もたくさんあるようです。ぜひ読者のみなさんのお近くで行われている開発計画でぜひとも守りたいと思われるものの情報がありましたら、お寄せ下さい。積極的に「うみひろも」で取り上げて、CBD 議長国の日本が世界から非難されないように守っていききたいものです。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第70号

2010年12月1日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会